（第３種郵便物認可）　日本農業新聞　2/17(土)付　中国四国版　日本農業

生かそう地域資源

事業開発へ研究会
魅力ある特産、観光探る

愛媛県東温市商工会

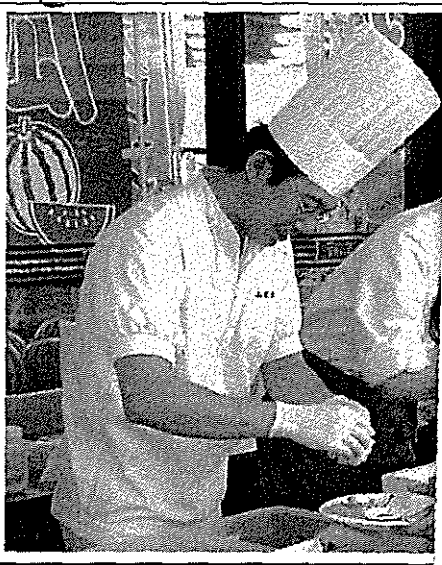
愛媛県東温市商工会は今年度、地域の魅力を再発見し、地域資源を生かした新しい特産品開発や観光開発の可能性を探るために、「地域資源∞全国展開プロジェクト」を始める。全国規模のマーケットを視野に入れた新事業の可能性を探る。

同プロジェクトは農林商工業者、行政、市民が一体で自然や歴史、農産物など地域資源を掘り起こし、全国規模で展開できる新事業の可能性を探っていく。今年は調査研究事業として事業者セミナーや一般参加の研究会など実施し、専門家を交えて商品企画の構想を練る。

8日の第1回研究会には商工会員、農業者、一般市民ら40人が参加した。日本総合研究所の金子和夫氏が全国の事例を紹介、地域にどんな資源があるか考えた。

同商工会はこれまでに地域ブランド創出・販路開拓支援事業に取り組んできたが、強力なリーダーやコーディネーターが不在であることや、商品開発の在り方、生産販売体制の整備などに課題があった。

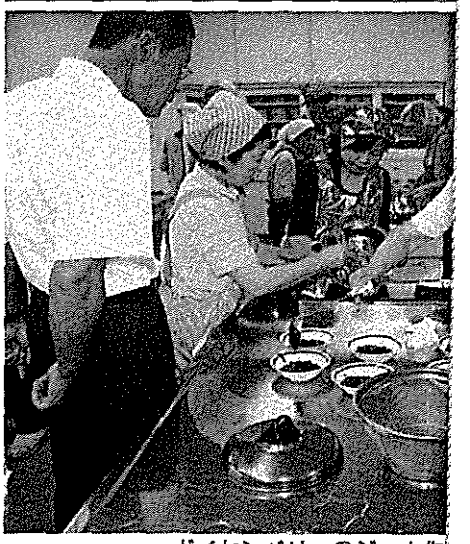
今年度は将来の「東温ブランド」創出に向けて構想をまとめ、来年度は試作品づくりに取り組む予定だ。



スイーツ試食は盛況だった

ース作りを指導した。冷凍したボイセンベリーをじっくり煮詰め、グラニュー糖を加えてジャムに仕上げた。参加者らは、牛乳を入れたジュースとジャムをパンにつけ味を楽しんだ。

観音寺市大野原町から参加した高橋保代さんは「ボイセンベリーに興味があって参加した。ジャ



ボイセンベリーのジャム作

″田舎力″で成功振興事例を紹介
高知県がセミナー

地域産業をリードする人材育成を進めている高知県は13日、高知市内で農業創造セミナーを開いた。生産農家や行政担当者ら170人が参加し、自分で企画、行動する方法を学んだ。

総務省地域力創造アドバイザーの金丸弘美さんが、地域を活性化する田舎力について講演。佐賀県唐津市の「甘夏かあちゃん」や、兵庫県豊岡市でコウノトリの復活とおいしい米の生産が地域活性化に貢献など全国の優良事例を紹介した。その上で、「地域が元気になるには『発見力、ものづくり力、ブランドデザイン力、食文化力、環境力』の5つの田舎力が必要だ」と強調した。

パネルディスカッションではJA馬路村の東谷望史組合長と四万十ドラマの畦地履正社長、㈲シュシュの山口成美代表、県農業振興部の田中正澄部長が「消費者は毎日食べ、飲むものを求めている」「この地域にしかないものを作ろう」「何もないなら種子を植えよう」「一次産品を活用し加工していく仕組みを作っていこう」などとアドバイスした。

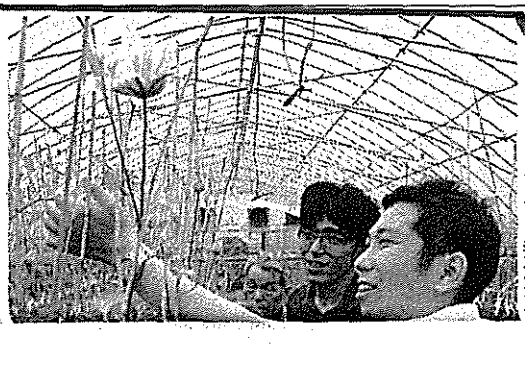
山内正和部会長は「対面販売を続けることで一部のスーパーから指名を受けるようになった。これからもおいしいアスパラガスの生産と対面販売を積極的に行いたい」と話している。

同部会は17日にも広島県で対面販売を予定している。

大田花き担当者クレマチス視察

岡山・JAまにわ勝山支所管内

【岡山・真庭】日本最大の花き市場を運営する大田



クレマチス栽培を視